

アラート機能を生かした 電子薬歴システムの有用性

株式会社 アルファーム
田口 雅一

目的

患者が服用してはならない薬剤の交付を未然に防止することは薬剤師の重要な責務のひとつと考えられる。

そこで我々は患者への安全確保の観点から、調剤時の見落としを防止することを目的として電子薬歴システムのもつ**アラート(警告)機能**に着目し、病名に対する禁忌薬と過去に副作用歴をもつ薬剤が処方入力された際に一旦入力が停止し注意喚起を促すような動作環境を構築し運用してきた。このアラート機能の役割と有用性について検証を行ったので報告する。

方法

病名禁忌薬剤の交付を防止するために、まずは対象疾患を選定した。病名禁忌が多いと予想される疾患・重篤度が高く病態が複雑な疾患を優先し、随時薬歴に反映させた。

病名禁忌薬剤監査設定 (エラーレベル=高)

アラート動作 警告POPアップ表示 入力回避=可

1) 対象疾患の選定

胃潰瘍 緑内障 うっ血性心不全 前立腺肥大

2) 薬剤服用歴の反映

病名記入は使用薬剤から類推される病名を主とし、事前に処方医とのヒアリングを行っている疾患もあるが、確実な病名フォローという点にはこだわらなかった。

病名入力の特記事項欄に病名コード作成し病名を薬歴に入力した

病名入力の方法

・うっ血性心不全・前立腺肥大

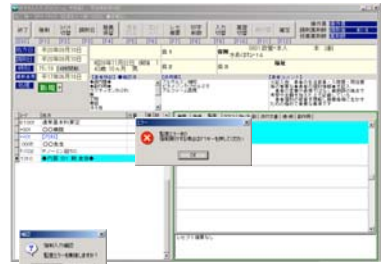
処方医とのヒアリングを行い使用薬品と処方傾向より病態を推定した。

・緑内障

患者の問診結果と併用薬の情報を反映させた。

・胃潰瘍

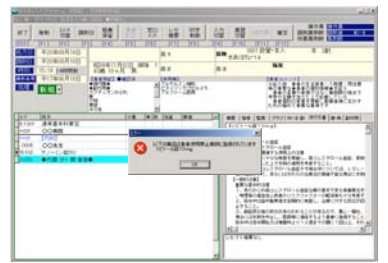
患者の問診結果から出血性潰瘍の既往を確認



使用禁止薬監査設定 (エラーレベル=最高)

アラート動作 警告POPアップ表示 入力回避=不可

患者個別のアレルギー歴・副作用歴の情報から、今後服用してはならないと思われる薬剤を入力した。設定を解除しない限り該当薬剤は処方入力できない



結果

レセコンへの処方入力時に監査設定されている薬剤が入力された場合にはアラート機能が有効に働き注意喚起されることによって記憶に頼らずより高精度で禁忌を発見し回避することが可能となり処方調剤における薬剤師の監査業務を強力にサポートした。

特に複数の基礎疾患を患うことの多い高齢者や他科受診患者・複数の薬剤アレルギーを有する過敏体質患者に対して有効に作用した。

病名禁忌監査エラー確認時の対応はそのほとんどが疑義照会となっている。急性病の臨時投薬に要する薬剤で禁忌エラーの場合は該当薬剤が処方変更となるケースが多かった。また、複雑な病態を呈する慢性疾患での禁忌エラーの場合は、その疾患の重症度などから処方医の判断で処方されていることが多く、臨時投薬と比べると処方変更に至るケースは少なかった。

また、使用禁止薬監査でエラーとなる事例は少なかったものの確実にアラートが機能し事故防止に貢献した。

考察

アラート機能の構築作業(情報収集-トレース-インプット)を行うことによって、患者への安全な服薬環境を提供するというテーマの重要性を再認識する機会となった。このことがより患者のための活きた薬歴を作成するという意欲向上の効果を生んだことも我々にとって成果のひとつと考えられる。

薬歴システムへの使用禁止薬と病名の入力は重要な患者情報として役割をもち、アラート機能を有効にするための実践的手段となった。

これらのことは、情報活用の創造的能力によってもたらされたもので、**いわば薬歴情報リテラシー(literacy)**といえるものであろう。

今後さらに情報手段の特性を活かしたエラーレベルの細分化設定を実施していくことを目標とし、薬物治療に影響を与える飲食物等の情報活用へも応用していく。

【使用したシステム】調剤Melphin/mk 電子薬歴システム Melhis
三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社

連絡先



皆様のご意見を頂戴して、これからも改善していきたいと思っております。
ご意見、ご感想をいただける方は下記までご連絡をお願い致します。

栃木県 (株)アルファーム

〒311-4152 茨城県水戸市河和田3丁目2568-1 TEL 029-251-9331 FAX 029-251-9378
E-mail:taguchi@alpharm.co.jp URL : http://www.alpharm.co.jp